

実用化事例

『人にやさしい器』の実用化支援

【相手先企業】 ひとにやさしいうつわ開発研究会

【開発の背景】

茨城県歯科医師会東西茨城支部食文化研究会『楽食の会』から「食環境の構築」のための食器具の開発提案があり、平成13年度に当センター事業「笠間焼新商品開発研究会」として窯業指導所が中心となり活動を開始しました。

平成16年度に「チームKDS(カサマ・デザイン・スピリッツ)」として、歯科医師や栄養士、保健士など様々な業種の集まる研究会に発展しました。

平成21年度に、業界主導の「ひとにやさしいうつわ開発研究会」として設立発足いたしました(会員数17名)。当所では、開発における関連機関との連携支援、展示会などにおける運営支援などを行いました。

【開発の経緯・支援内容】

8年間にわたる活動の中で、歯科医師や栄養士等と連携し、すくいやすい器、誤飲防止のカップなど、数多くの製品を生み出してきました。

また、多くの展示会開催やメディアへの掲載により、「人にやさしい器」の定着を図っています。

*展示会(平成21年度):
道の市(6/6~7 笠間市弁天町), 人にやさしい器展(7/5~6 取手市), 柏市口腔衛生大会(6/28 柏市), 台湾デザイン博覧会(10/2~18), 歯科医師会館展(11/8 水戸市), つくば展(11/21~23 つくば市), 第6回人にやさしい器展(1/2~1/24 笠間市)

*新聞掲載: 4/26(茨城), 7/6(朝日), 1/2(茨城)ほか
*専門誌掲載: 陶遊112号(09.4), 113号(09.5)ほか
*販売: 笠間市内の販売店, ホームページなど。

【開発した製品の紹介】

製品開発の中で、利用者や介助者からの意見や提案を具現化し製品に反映させることで、「すくいやすい」・「飲みやすい」など、自助食器としての機能を向上させています。自食できることが利用者の自信になることで、利用者や介助者双方の心の安定につながります。



写真: 作家検討会の様子



写真: 第6回人にやさしい器展



写真: 台湾デザイン博覧会

基礎となった事業 平成16年度 オンリーワン技術開発支援事業(笠間焼新商品開発研究会)

現在の担当部門
工芸技術部門 技師 望月 聡美
部門長 佐藤 茂
材料技術部門 所長 鷺野谷 昇

tel: 0296-72-0316